

# 父に生きた人 モーセの遺言 向きを変える ～向きを変える時の決断～

ヨシュア2:1～21  
ヘブル11:31

## ■ 私たちは何に影響を受けていますか？

ある大学が1900年～2000年代にかけて女子高生がどんな日記を書いているかについて調べました。1890年代の女子高生の日記の特徴はこのようなものでした。

- ・私の決心を考えてからどう話すかを行動する。
  - ・現状や行動において自分を律することを考えて、フラフラさせないこと。
  - ・もっと他人に関心をもつ。
- 2000年代の女子高生の日記はどのようにでしょうか。
- ・もっと素敵になれるように努力する。体重を落とす。
  - ・新しい服やメイクを買う。
  - ・他人との比較。

明らかに外見を中心とした内容がほとんどだったそうです。情報社会になり、私たちは外側から影響を受けることが多くなりました。憧れの人が使っているメイクが欲しくなったり、流行りのアイドルがCMをすればそのドリンクが売れたりします。しかし、私たちが影響を受けるのは外側ではありません。内側です。台風や災害など、未曾有の出来事が起こった時に、私たちがどのように判断するかで物事は大きく変わります。なぜなら、私たちが左右するのはいつも「決断」だからです。しかし、外側が決断に影響を与えることはありません。私たちはいつも自分の内側で決断しています。ですから、内側が鈍っていると決断がずれてしまいます。

## ■ 理不尽と痛みの中でどう決断するか

先週のメッセージで、ヨシュアとカレブの決断を見ました。12部族から選ばれた先遣隊のうち、10人はカナンの地をひどい土地だと言いました。しかし、ヨシュアとカレブは「あの地は乳と蜜が流れる良い地です」と報告しました。それによって彼らはイスラエルの民から石打ちにされるような状況になりましたが、神様は2人とその部族のみをカナンの地に導かれました。

まさにこれからその地に入ろうとするときに、ヨシュアとカレブは2人の斥候(偵察隊)を送ります。そこで出会ったのが遊女ラハブでした。遊女であった彼女の名前はヘブル人への手紙11章に登場します。ヘブル11:31『信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。』

そして、マタイの福音書1章、イエス・キリストの家系図の中にも彼女の名前を見ることができます。マタイ1:5『サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、1:6エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、1:16ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。』

世の中では、遊女という仕事は罪かも知れませんが、ダビデやウリヤがしたことは失敗かも知れません。しかし、そのような理不尽と痛みの中であっても、正しい決断をしようとした人たちに、神様は奇跡をもたらしました。外見や外側ではなく、内側を着飾っていきこうと決断した人たちが選んだ道の先に、イエス・キリストが生まれたのです。

## ■ ラハブの決断

ヨシュア記2章のはじめには、王からの遣いとラハブのやりとりがあります。ラハブのところ泊まった2人の斥候について「あなたの家にはいった者たちを連れ出しなさい」(2:3)と王から命令がくだります。しかし、ラハブは2人をかくまって「私のところには来たけれど、どこから来たのか知りません。そして2人は暗くなる前に門から出ていきました。どこに行ったかは知りません」(2:4-5)と答えます。なぜ彼女は命令にさからってまで彼らをかくまったのでしょうか？

9節以降を読むと、彼女が今までの生き方を変えようと決断したことがわかります。彼女は荒野で【主】がなされたことを知っていました。(2:9-10)そして、ただ恐怖に襲われて心がしなえてしまい、勇気を失ったのではなく、「あなたがたの神、【主】は、上は天、下は地において神であられるからです。」(2:11)と告白したのです。ここに彼女の決断があります。

神様がせよと言われる決断は、人が聞けば「それはやめておけ」と言うようなことです。ラハブも2人をかくまわず、王の命令に従って「彼らは屋上にいます」と言えば、王からの評価を得て、遊女という仕事をやめることができたかも知れません。しかし彼女は、神がせよと言われる決断によって『信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。』(ヘブル11:31)と記されたのです。

## ■ 信仰によって

ラハブは【主】のことをわかっていただけではありません。しかし、彼女は冷静に物事を判断しました。苦しみにあう時、私たちは知恵深くなります。ラハブはその場しのぎの解決ではなく、人生を根本から変える決断をしました。その決断と命を懸けた彼女の願いによって、父、母、兄弟、姉妹、また、すべて彼らに属する者が守られたのです。(2:12-13)「変貌・変遷」は神様の恵みです。それは一時、状況がよくなったり、外見が変わったりすることではありません。そして、一人の問題だけが良くなるのでもありません。その人の生き方から、周りの人や次世代にまで影響を与える、それが神様の言われる決断です。聖書に出てくる人たちは多くが失敗者ですが、私たちが同じです。外側を着飾って隠せない内側を繕うのをやめて、自分の失敗を認める時、人生が根底から変えられます。

斥候がラハブのもとを去る時、ラハブに『私たちが、この地に来て来たなら、あなたは、私たちをつり降ろした窓に、この赤いひもを結びつけておかなければならない。』(2:18)と伝えました。次に来るときにしておきなさい…と伝えたにも関わらず、彼女は彼らを見送ったあと、すぐに言われたとおりにしました(2:21)彼女のこの行いが『信仰によって』(ヘブル11:31)と記されたのです。私たちが信じて踏み出す時、神様が力を与えてください。

## ■ 向きを変えるために 一現在と過去にとらわれない

一つの動画を紹介します。鹿が川を渡る動画です。小鹿が川中まで来た時、奥の方からゆっくりとワニが向かってきました。それに気づいた母鹿は小鹿を追いかけよう川に入ります。小鹿を早く渡らせるのかと思ったら、母鹿は途中で走るのをやめて、ワニの前で止まります。ワニは大きな口を開けて母鹿を飲み込み、水の中に消えていきました。小鹿は反対岸に渡り、かけていきました。

この母鹿は我が子を襲おうとするワニの前に立ち、自らが犠牲になることを選んだのです。その決断は子どもの命をつなぐ決断でした。彼女は自分の命は失いましたが、子どもの命を得たのです。まさに聖書の生き方です。

『自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとしませす。』(マタイ10:39)

もし、母鹿が現在にとらわれていたら、この決断はできませんでした。彼女は将来を見ていたので、種(命)をつなぐことができました。私たちは選ぶことができます。過去 or 将来か、恐れる or 祈るか、不安でいる or 信じるか、不満を言う or 感謝するか、批判する or 協力するか、停滞する or 行動するか、後悔する or 改めるのか。あなたは何を見て決断しますか？

## さいごに

ラハブのストーリーをとおして、私の人生が問題なのではなく、私が出している「一瞬の決断」が問題であることを知りました。目の先にことに感情が揺さぶられ、大騒ぎし、見えるもので決断しようとしていませんか。恐れと比較から、外側を着飾ることに注力していませんか。

不要な人、数えられない人であった遊女ラハブの理不尽からイエス・キリストが生まれました。母鹿の行動は、イエス・キリストの十字架です。私たちが救うために、自らが犠牲となった生き方です。大事なことを選ばなければならないとわかっていても、その決断ができない時、自分の胸に手をあててみましょう。心の中に不安や騒ぐ心があるなら、「私はどうあるべきですか?」「私の願いは何でしょうか?」「神様、私はどうしたらよいですか?」と神様に聴きましょう。

神様に与えられた霊の心に従って忠実に選び、神様を第一にするとき、私たちの人生に神様の真実があらわされます。私たちが神様に向かって叫び続けるなら、祈りはきかれます。『もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。』(ヨハネ11:40)

外側を着飾って繕う生き方ではなく、心の内側にある神様の生き方を見失わず、愛と祈りをもって決断していきましょう。

(要約者:岡本 享子)

(2024年9月1日)